

収穫コンテナを活用したイチジクの簡易・安定生産技術の開発

【研究概要】

東京都における直売果樹品目の拡大を目的に、導入しやすく有利販売が見込める品目としてイチジクに着目した。イチジクの簡易・安定生産技術の開発を目的に試験を実施した。その中で、今年度は下記の2つの成果が得られた。

- (1) 列間を185cmと150cmに、株間を150cmと100cmに変えて検証した4区のうち、「ドーフィン」の収穫コンテナ栽培2年目の樹体生育は、列間150cm株間100cmの区で結果枝の本数と枝長が最も大きい。健全果は全区で130kg/100㎡程度収穫できる。果実重は株間100cm区で大きく、糖度と果実硬度に差はない。
- (2) 収穫コンテナ栽培2年目の樹体生育は、全品種で結果枝長150cm以上と生育旺盛である。総収量は「バナナクイーン」が多くなり、収穫盛期は8月下旬になる。果実重は「ドーフィン」が最も大きく、糖度と果実硬度に差はない。